

BRI NEWS



Epistula

えびすとら

建設省建築研究所
Building Research Institute

Vol. 13

発行： 1996.7

なりたち

現在では、たいていの試験・研究機関で外国人を見かけることは特別なことではなくなりました。でも、建築研究所においでになった時、「ここは妙に外人が多いなあ。」とお感じになったことはありませんか。定員約170名の当所には、通常でも20人、多い時には30人以上の外国人が滞在しています。彼らのほとんどは国際地震工学部で研修を受けている途上国の研究者・技術者です。当所では、1962年から、地震学(火山学を含む)及び地震工学(建築、土木)の研修を行っています。その間の63年から9年間は国際連合との共同事業でしたが、72年からは日本政府単独の事業として今日まで続いています。本号では、この「国際地震工学研修」を紹介いたします。

戦後の復興が確実に進んだ1960年に第2回の世界地震工学会議が東京で開催されました。それを契機に、東京大学を中心に、地震によって人的・物的両面で大きな被害を受けている開発途上国の若い研究者を集団で研修する必要性と意義が論じられるようになり、同年7月に関係各位の努力で任意で第

1回の集団研修が実施されました。戦後の復興を支えた人々の気力と活力には脱帽するばかりです。その後、この研修は各国の反響を呼び「恒久化を」という要望が多数寄せられ、それを受けて、科学技術、外務、文部、運輸、建設その他関係省庁での検討が始まりましたが、省庁間の綱引きがありなかなかうまい解決策がなかったようです。

当時建築研究所の所長は現皇后の軽井沢テニス旅行のアレンジ等数々のエピソードを残している竹山謙三郎氏でした。竹山氏の英断により、1962年から建築研究所が新しい研修のための部(国際地震工学部)を同研究所内に設け、同時に、建設省の設置法にも「地震工学に関する研修生(外国人研修生を

含む。)の研修を行うこと。」と明記され、建築研究所が主務機関として今日まで30有余年本研修を実施してきました。きめ細かな研修の運営のための専任スタッフを擁する国際地震工学部は、かつては「トレセン」(トレーニング・センターの略)、現在では「IISEE」という略称で呼ばれることが多く、世界の、特に途上国の地震防災関係者のキーワードの一つとなっています。



特集

国際地震工学研修

建築研究所の国際協力

IISEE

International Institute of Seismology and Earthquake Engineering

特集

国際地震工学研修

建築研究所の国際協力

建築研究所では、世界の地震災害の低減・防止に寄与し、国際親善・友好に貢献するために、開発途上の地震国から若い研究者や技術者を招き、地震学・地震工学の研修を行っています。この研修事業を実施するために設けられた国際地震工学部は、IISEE(International Institute of Seismology and Earthquake Engineering)として世界に知られています。

IISEE 研修コース

「一般コース」は、本研修の基幹コースです。本コースは地震関連の理学系の研修生を対象とした地震学コースと工学系の研修生を対象とした地震工学コースに分かれ、それぞれ約1年で基礎から専門そして先端技術まで学び、しかも後半4ヵ月で卒業論文まで仕上げていきます。

「セミナーコース」は、卒業生の「10年後の再研修」を目指し、その時々世界的なトピックをテーマに実施されています。本年10月にも兵庫県南部地震を踏まえて「都市における地震災害の低減」をメインテーマとして開催する予定です。

「グローバル地震観測コース」は、全面核実験禁止条約の批准に努力している外務省からの要請で、昨年開始されたばかり

のコースです。特に、地震学が未発達の世界を対象として、地震学的手法を用いた核実験を検知する技術の習得を目的として行われています。

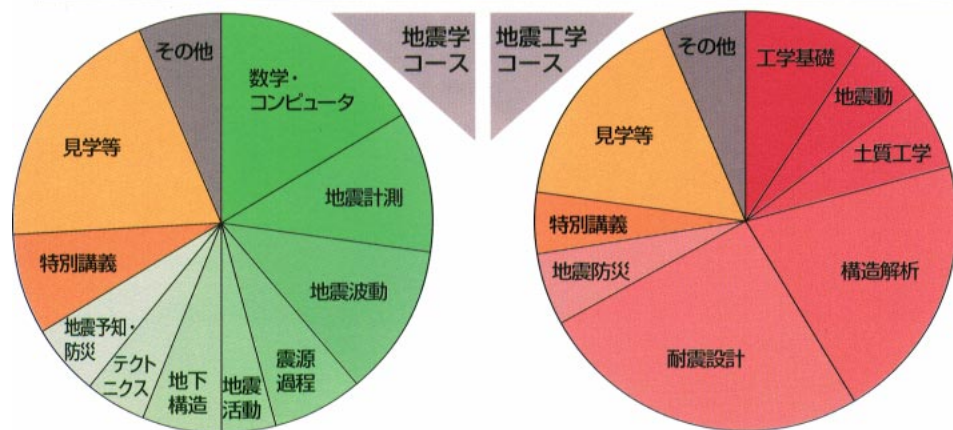
「個別コース」は、研究のテーマを決めて、受け入れ研究者から一対一の指導を受けるコースです。



授業風景

コース	定員	期間	研修
一般コース	20名	11ヵ月(9月~7月)	講義、個人研修
セミナーコース	10名	1ヵ月(隔年)	講義、討論
グローバル地震観測コース	10名	2ヵ月	講義
個別コース	5名	任意	個人研修

一般コース(1995~1996年)のカリキュラム構成



フレンドシップパーティ

地震観測実習

IISEE

世界で活躍する卒業生

30有余年にわたるこのIISEE研修は、現在までに約900名の卒業生を輩出しています。この研修をきっかけに、日本との関わりを深める卒業生が多く見られます。

それぞれの国の研究機関、行政機関などで活躍する卒業生の声を聞いてみました。

Mr. Jordan Ivanov Milev

(ブルガリア、建築・土木工学・測地学大学助教授) IISEEでの研修(1994~95年の一般コース)はとても素晴らしい思い出となっています。IISEEを



はじめとする建築研究所の皆様のおかげで、我々研修生は地震工学の最先端の知識を得ることができました。私にとっては、RC構造物の静的および動的非線形解析について、世界的に最も進んでいる日本の一流の研究者から学ぶことができたのは、大変貴重な経験となりました。この経験に基づいてブルガリアの私の大学で、大学院生を対象とした「RC構造物の非線形解析」の新しい講座を来年度から設ける予定です。IISEEが、この研修をこれからも最善を尽くして毎年続けていられることを願っています。また、今後も我々卒業生と交流を続け、新しい情報を提供していただくことを希望しています。

Mr. Raçhan Yilmaz

(トルコ、公共事業居住省災害総局地震研究部地震学研究室長)



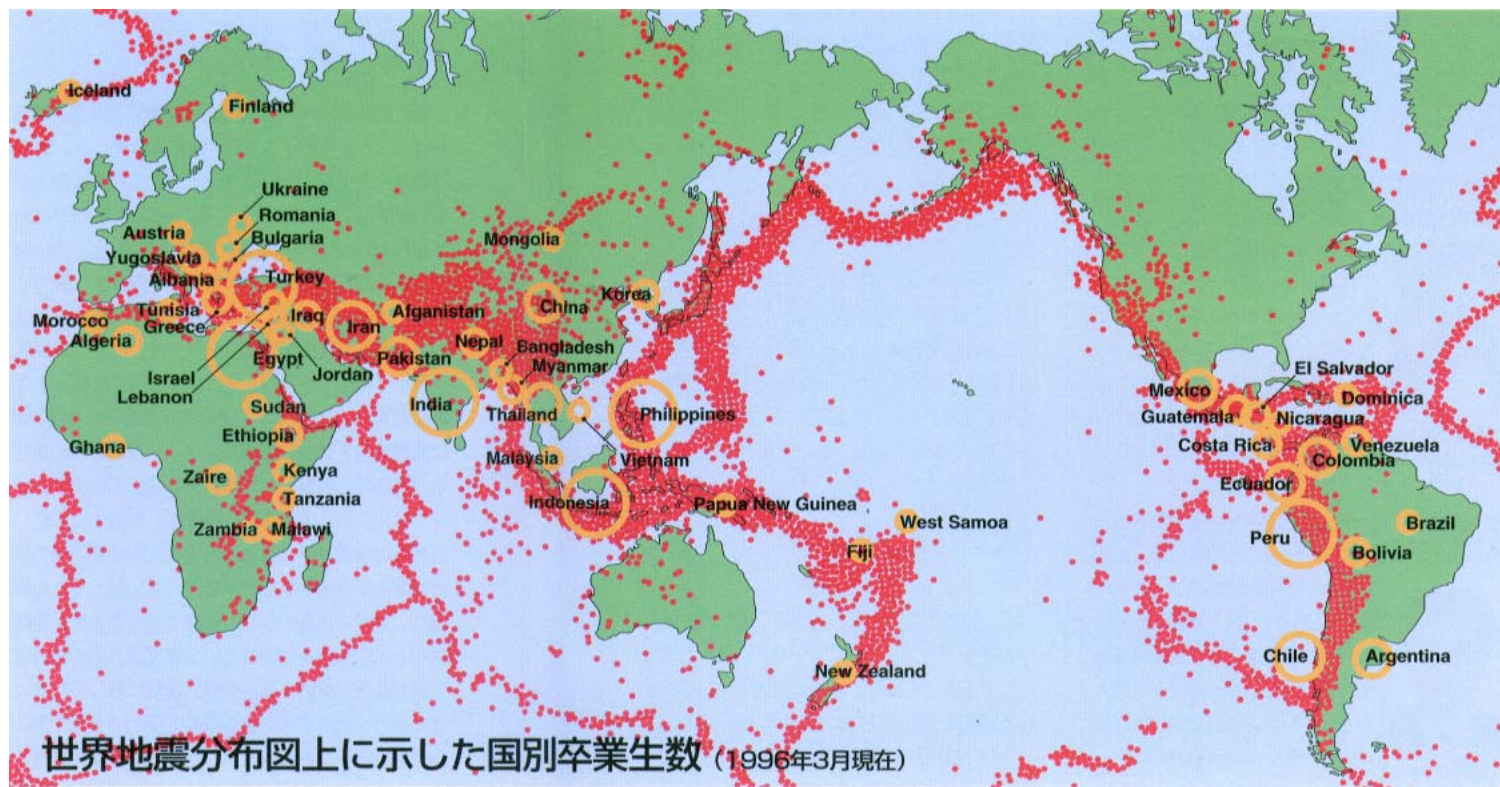
IISEEの研修(1983~84年の一般コース、92年、94年のセミナー)に参加した一人として、この研修は非常に有益だったことを感謝します。この研修を受けることによって、トルコ周辺における地震観測および地震テクトニクスに関する私の研究を推進させ、また視野を広げることができました。当時のことを思い起こしますと、IISEEの環境はより多くの必要な知識を習得しようとする者にとって大変よく整備されていたと思います。また、講師陣も研修内容をよりよく理解できるように適切な構成がなされていました。講師およびIISEEのスタッフの貢献は高く評価されるべきで、IISEEの研修事業は、非常に重要であると思います。

Ms. Sumalee Prachuab

(タイ、気象庁地震学部長)



私はIISEEの1977~78年の一般コース研修、1988年と1994年の地震工学セミナーに参加しました。これらの研修は非常に成果があり、私たち研修生の母国での職務の向上に大変役立っています。私はこの研修後、日本で学んだ高度な技術を用いて、タイにおける広域デジタル地震観測ネットワークを整備しました。また、地震災害低減4箇年(1997~2000年)計画のマスタープランを立案しました。この計画は、私たちを支援する日本のような経験のある国からの専門家を必要としています。現在、私は気象庁の地震学部長をしていて、地震に関する全ての業務を担当しています。日本でのお世話になったIISEEとJICAに感謝します。日本で会った人々、伝統、得た知識は決して忘れません。



今後も期待されるIISEE研修

本研修が開始された当時は、国際協力をモチーフにしたこのような事業は国内外とも少なく、希少価値がありました。しかしながら、今では国内でも国際協力事業団(JICA)を通じた集団研修や通産省等の研修事業、文部省の留学生受入事業等々が一般化し、世界に目を向けても、地震防災に關係する研修は、米国やドイツといった先進国だけでなく、タイのアジア工科大学やイランのIIEES(当方とよく似た名前)でも開催され、また、第三国研修も各地で実施されています。果たして現在でもIISEE研修の意義はあるのか、何をどう時代に合わせて変えていく必要があるのか、今後のIISEE研修のあるべき姿を常に考えながら研修を実施していく必要があります。

Mr. Ezzeldin Mohamed Ibrahim

(エジプト、国立天文・地球物理学研究所教授) 私は地磁気観測を担当していた時初めて日本へ行き、IISEEの1967~68年の一般コース研修に参加

しました。この研修は、友人のおかげですばらしい思い出ができました。研修後、帰国してすぐに私の国の地震災害軽減計画の実務に携わり、コロンビアにおける地震動特性を調べるための強震観測ネットワークの整備に取り組みました。1993年にこの観測ネットワークの運用を開始し、既に39の地震による162の記録が得られています。私はこの課題に大変興味を持ち、次第にその興味が増大して再度来日することになり、今は京都大学防災研究所で博士号をとるために、強震動の推定に関する研究を行っています。

Mr. Nelson E. Pulido Hernandez

(コロンビア、国立地質調査所全国強震観測網班長) 私はIISEEの1991~92年の一般コースで地震工学の研修を受けましたが、日本ならびにIISEEの

スタッフ、講師、友人のおかげですばらしい思い出ができました。研修後、帰国してすぐに私の国の地震災害軽減計画の実務に携わり、コロンビアにおける地震動特性を調べるための強震観測ネットワークの整備に取り組みました。1993年にこの観測ネットワークの運用を開始し、既に39の地震による162の記録が得られています。私はこの課題に大変興味を持ち、次第にその興味が増大して再度来日することになり、今は京都大学防災研究所で博士号をとるために、強震動の推定に関する研究を行っています。

Mr. Julio Kuroiwa H.

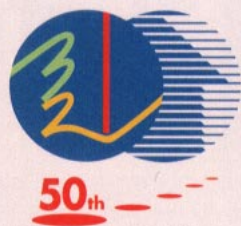
(ペルー、国立工科大学名誉教授) 私は1961~62年の一般コース研修、1975~76年の個人研修、さらにはIISEEによって開催された

いくつかの会議に参加しました。IISEEによって教授された地震工学に関する知識と長年にわたる支援は、私自身はもとより私の教えた学生達の専門家としての能力の向上に重要な役割を果たしました。また、日本の建設省建築研究所とJICAの支援で、ペルーの国立工科大学に日本・ペルー地震防災センターが設立され、ペルーをはじめとするラテンアメリカ諸国におけるマイクロゾーンネーション技術の開発とその応用などの成果があげつつあります。私は同センターの設立委員会の委員長として、また初代センター長として開発途上国での地震による人的、物的被害の軽減のために、IISEEがたゆみなく努力されているのを見てまいりました。

1992年に建築研究所における研修30周年を記念して27カ国220有余名の参加を得て「IDNDR地震防災技術国際シンポジウム」を開催しました。その際、卒業生に「今後のIISEEに何を望むか」というアンケートをとってみました。一番多かったのは、「今日までと同様に当該分野の能力ある研究者、技術者の養成を続ける」ということでした。我々が考えている以上にIISEEの存在意義は健在のようでした。情報化が進み報道等で地震防災の必要性が認識されればされるほど、専門家の養成は急務で増加する一方です。新規研修参加国もアフリカ、東欧諸国と広がりつつあります。900人の実績と日本の一流の講師陣を配したカリキュラムはまだ魅力あるものようです。

ますます期待が高まっている本研修事業をより意義あるものとするために、講義内容・フォローアップの充実、研修施設・教材・機材の整備などに努めていきたいと思っています。

TOPICS



建設省 建築研究所 50 周年記念 国際シンポジウム

「持続可能な都市実現のための建築研究」

建設省建築研究所では、創立 50 周年を記念する事業として、各国の研究者を招いて討議する国際シンポジウムを計画している。詳細については企画部企画調査課国際係。

Tel. 0298-64-2151

日時：1996 年 10 月 16 日(水)

場所：研究交流センター(つくば)

建築研究所と EU 安全工学研究所 (JRC) との共同研究始まる

建設省建築研究所において 1996 年 4 月 22 日(月) 23 日(火) 両日に渡って、建築構造物の耐震安全性に関する研究協力における第一回目の実務的打ち合わせが実施された。

平成 8 年度 秋季講演会の 開催について

建設省建築研究所では、下記の日程で秋季講演会の開催を予定している。今年は創立 50 周年を迎えての企画を計画之中である。詳細については企画部企画調査課情報管理係。

Tel. 0298-64-2151

日時：平成 8 年 11 月 13 日(水)、14 日(木)

会場：安田生命ホール(東京都新宿区)

編集後記

本号では、当所がその本来の研究業務だけでなく、国際協力の先駆けともいえるこの研修を 30 数年間続けてきた事実を読者の皆様にお伝えできたらと思っています。これだけの規模の研修は、正に一個人一団体の力ではできません。外部講師の派遣や見学の便宜等様々な機関や個人の協力を語らずに研修は語れません。この場をお借りして御礼申し上げます。

兵庫県南部地震後、一般コースの応募者も増えつつあり、また、新コースも開始され、益々外国人密度が高くなるこの頃です。IISEE については、英文パンフレットに日本語年報そして毎年発行の 2 種類の英文研究論文集がありますので、興味のある方はお問い合わせください。ただ、行革・定削関連等々で戦力たる人は減りつつあり、所の中の別格扱いも今は昔で将来像を考える余裕さえないような気がします。先日某新聞に、東京都の青島知事が職員に対し訓辞を述べ、民間に比べて都は人が多すぎるという批判があるが私はそう思わない、人は財産であり、一人ひとりがその力を出せばそれはすごい戦力になるというようなことが書いてありました。(原文どおりではない。) 真理は時代・世の中と共に動くもの、改革・リストラ=人減らしの発想はもうやめて、どう効果的に人をを使うかを考える時ではないでしょうか？(Y.I)



Epistula

第 13 号

平成 8 年 7 月 1 日発行

発行：建設省建築研究所企画部企画調査課

〒305 茨城県つくば市立原 1

Tel. 0298-64-2151 Fax. 0298-64-2989